



マンサクは、2月中旬頃から花を咲かせ、春の訪れを人々に知らせます。枯れ野に目立つ黄金色の花は、古来より人々に親しまれてきました。

**Vol.153**  
令和4年度3月号

## 自然再生協議会が開催されました

自然再生協議会が3年ぶりに対面で開催されました。宮城県・栗原市・登米市・環境省といった行政機関、土地改良区などの地域代表者や保全活動団体の代表者が一同に集まり、自然再生事業の進捗状況についての質疑が行われました。50名もの関係者が集まるのは久々のことで、会議終了後もたくさんの方々が旧交を温めていました。活発な議論を通じ、伊豆沼の自然再生が更に進展するよう努めていきたいと考えています。



## 第16回 伊豆沼・内沼研究集会開催



会場の様子

2月4日に、第16回伊豆沼・内沼研究集会が開催されました。今回の研究集会では、人工知能による深層学習を用いた希少昆虫の自動検出と3次元トラッキングといった、近年のトレンドを反映した発表が行われました。この技術が実用化されれば、生物調査の現場における人手不足の解消に役立つかもしれません。また、無人の状態では生物を観察できるため、警戒心の強い生き物の自然な行動を観察できるようになるかもしれません。その他の発表では、風況データから伊豆沼・内沼の水質汚濁の原因を探る研究や、愛好家による採集圧が希少魚類を減少させた事例、伊豆沼・内沼におけるメンカラスガイの生息・繁殖状況、希少昆虫コバムシの産卵基質の好みに関する報告などが行われました。



ライブでの配信の様子(矢印)

本研究集会の様子は、ライブ配信されました。研究集会会場での観覧やライブ配信の視聴など、多様な参加方法を採用することで、多くの方々に伊豆沼・内沼での保全活動を周知できたことと思います。





アメリカ、韓国、中国のガン類の研究者を交えた、国際シンポジウム「東アジアにおけるガン類の保安全管理に向けて」が1月28日に栗原市若柳で開催されました。オンラインを含め、120名ほどが参加しました。財団からは嶋田研究室長が国内へのマガンの飛来数増加とその背景について発表しました。各国の取り組みの発表の後、先進的な欧米のガン類の保安全管理を東アジアでどのように実現するか、議論されました。

## 一斉清掃(野火)の実施にご協力下さい

日時:3月4日(土) 8:00~12:00

悪天候の場合は、3月11日(土)、または18日に延期

場所:伊豆沼第2・第3工区堤防敷き

伊豆沼・内沼の自然環境の復元と湿地保全のため、土地改良区、漁協と共同で、伊豆沼第2・第3工区堤防の周辺道路を通行止めにして、野火(枯れ草の焼却)を実施します。



火災と間違えないようお願いします。



## 第61回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを開催します



今年度は、事前参加申込方式による開催となります。多くの皆様方の参加をお願いします。

◎マスクの着用をお願いします。

◎発熱や風邪症状等がある場合、参加をご遠慮ください。

日時 3月21日(火) 春分の日 小雨決行

雨天の場合は、3月25日(土)に順延

開会8:30 (小雨決行)

集合場所 鳥館、昆虫館、淡水魚館

## 伊豆沼・内沼生き物図鑑 ~ オオワシ ~

オオワシは翼を広げると2.4mほどで、成鳥では黄色い大きな嘴と肩の白色が特徴です。天然記念物、特殊鳥類に指定されています。オホーツク海沿岸に分布し、北海道東部を中心に越冬します。オオワシは伊豆沼・内沼では稀にしか見られない鳥ですが、今冬は、凍結した沼の氷上で、オオワシがカモ類などを採食し、その周りで4羽のオジロワシが集うなど、ワシがよく見られた年となっています。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳上畑岡敷17-2  
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター  
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217  
ホームページ:<http://izunuma.org/>  
E-mail:[izunuma@circus.ocn.ne.jp](mailto:izunuma@circus.ocn.ne.jp)

